

鈴鹿市制施行 70 周年記念 第 8 回特別展

「北の黒船・ラクスマン来航

—光太夫帰国 220 周年—

「特別公開 朝鮮通信使胴掛」

大黒屋光太夫記念館 第8回特別展

鈴鹿市制施行 70周年記念事業

第1期

北の黒船 ラクスマン来航

—光太夫帰国 220周年—

開催期間 2012年 9月26日(水)～11月18日(日)

先着1,000名様に
展示内容を解説した図録を配布します。
9月29日(土)・10月27日(土) 10:00～
午前館による図録解説を行います。

入館料 無料

第2期

朝鮮通信使胴掛

開催期間 2012年 11月22日(土)～12月9日(日)

大黒屋光太夫記念館

〒510-0224 三重県鈴鹿市若松中一丁目1-8 TEL&FAX:059-385-3797

●休館日 / 大黒屋光太夫帰国220周年記念展
●開館時間 / 午前10時～午後5時
●入館料 / 無料

〒510-0224 三重県鈴鹿市若松中一丁目1-8 TEL&FAX:059-385-3797

●休館日 / 大黒屋光太夫帰国220周年記念展
●開館時間 / 午前10時～午後5時
●入館料 / 無料

●主催 / 鈴鹿市 ●協力 / 船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

ロシア船、北の海に現る!

2012年は、アダム・ラクスマンが探検者・大黒屋光太夫を連れて帆船で来航して220周年の節目の年にあたります。

江戸時代の日本に、探検者・大黒屋光太夫を伴い、日本に開港を求めたこの事件は、日本の外交に大きな影響を与えるとともに、日ロ間で初めての公的交渉交渉が行われるきっかけともなりました。ラクスマンが日本に到着したのは約400年前ですが、その間に日本人の海外文化も広まり、また、様々な西洋の文化が日本に紹介されました。今回の特別展では、ラクスマン乗組員に関する船中手紙や文書等も展示し、光太夫が帰国したことの意味やロシア船乗組員に対する日本人の反応・影響などを紹介します。

展示説明会 無料
9月29日(土) 10:00～11:00
10月27日(土) 10:00～11:00
所要時間40分 予約

特別公開 朝鮮通信使胴掛
「重要文化財 朝鮮通信使存留部破砕胴掛」(白子町町政蔵)を特別公開いたします。多くの方からご要望を受け、最終存留部70周年記念事業として白子町町政蔵のご協力のもと、展示いたします。

鈴鹿市制施行70周年記念事業 第8回特別展

第1期

北の黒船・ラクスマン来航

朝鮮通信使胴掛

大黒屋光太夫記念館

〒510-0224 三重県鈴鹿市若松中一丁目1-8 TEL&FAX:059-385-3797

●休館日 / 大黒屋光太夫帰国220周年記念展
●開館時間 / 午前10時～午後5時
●入館料 / 無料
●アクセス / <http://www.mts.orionnet.ne.jp/kyoto/>
[大黒屋光太夫記念館] クリック

大黒屋光太夫 記念館

〒510-0224 三重県鈴鹿市若松中一丁目1-8
TEL:059-385-3797 FAX:059-385-3798

●休館日 / 大黒屋光太夫帰国220周年記念展
●開館時間 / 午前10時～午後5時
●入館料 / 無料